

景気動向調査結果

(平成24年4月分)

長野県商工労働部

この調査は、県内企業 900 社（製造業 300 社（うち面接 65 社）、建設業、情報サービス業、小売業・卸売業、飲食業・宿泊業 600 社）を対象に、平成 24 年 4 月末の状況（前年同期、3 か月前と比較した状況、3 か月後の状況予想）について、平成 24 年 5 月に面接又は書面により行ったものです。

なお、平成 23 年度の調査からは、従来の「製造業」に、「建設業」、「情報サービス業」、「小売業・卸売業」、「飲食業・宿泊業」も加えて実施しております。

回答企業数は、570 社（製造業 232 社（うち面接 64 社）、建設業、情報サービス業、小売業・卸売業、飲食業・宿泊業 338 社）で、回答率は 63.3 パーセントでした。

※調査結果の概要は、インターネットで御覧になれます。

[URL <http://www.pref.nagano.lg.jp/syoukou/sinkou/keiki/keikidoukou.htm>]

お問い合わせ先：製造業について

長野県商工労働部産業政策課（TEL 026-232-0111 内線 2919）

建設業、情報サービス業、小売業・卸売業、飲食業・宿泊業について

長野県商工労働部経営支援課（TEL 026-232-0111 内線 2959）

4月の景気動向

1 総論

県内企業の業況感は、海外景気の下振れなどにより依然として厳しい状況にあります。個人消費の緩やかな増加などを背景に、持ち直しつつあります。

2 製造業

(1)概況

県内製造業の業況感は、電機・電子で、受注、生産の減少がみられるものの、自動車販売が堅調に推移していることなどにより、自動車部品や一般機械で、受注、生産の増加がみられました。

前年同期（23年4月）と比べたDI（業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を差し引いた値）は、 $\Delta 14.4$ で5期連続のマイナスとなりましたが、3期ぶりに改善しました。

また、3か月前と比べたDIは、 $\Delta 7.0$ で3期連続のマイナスとなりましたが、前回より大幅に改善しました。

なお、3か月後の予想では、新興国等を始めとした海外需要の拡大や国内需要の持ち直しへの期待感があるものの、円高に伴う景気の先行き不安や海外景気の下振れ懸念などを背景に、DIは $\Delta 2.2$ となりました。

〔主な業種の動き〕

ア 電機・電子では、パソコン関連は、高価格帯製品の需要の減少により、受注、生産が減少しているほか、製品価格の下落がみられます。プリンターは、アジア地域を中心とした海外需要の増加により、受注、生産が増加しているものの、円高の影響による収益率の低下がみられます。半導体関連、抵抗器・コンデンサ、モーター等は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、海外需要の減少により、受注、生産が減少しています。

イ 一般機械では、工作機械は、自動車関連向けでタイの洪水からの復旧に向けた需要の増加などにより、受注、生産が回復しているものの、電子部品関連向けでは設備投資が抑制傾向にあり、受注、生産が弱含んでいます。建設機械は、国内向けで需要が回復傾向にあり、受注、生産が持ち直しているほか、海外向けで需要の増加により、受注、生産が増加しています。

ウ 精密では、時計は、海外需要の増加などにより、受注、生産の増加がみられます。レンズは、プロジェクター向けで欧米を中心とした海外需要の減少により、受注、生産の減少がみられるものの、工業用レンズで受注、生産の持ち直しがみられます。計器は、圧力計で、産業機械関連を中心に、受注、生産が減少しています。

エ 自動車部品では、環境対応車の販売増加やタイの洪水からの復旧に伴い、受注、生産が増加しています。

オ 食料品では、味そは、個人消費の持ち直しにより、受注、生産の増加がみられます。酒類は、一部に受注、生産の増加がみられるものの、消費の低迷により引き続き低調に推移しています。飲料は、季節的要因により、3か月前と比べペットボトル飲料の受注、生産が増加しています。

(2)受注引合

前年同期比では、「増加」とする企業が30.3%と前回(19.8%)より増加し、「減少」とする企業が47.4%と前回(49.4%)より減少した結果、その差は前回より縮小しました。

3か月前との比較では、「増加」とする企業が26.7%と前回(11.4%)より増加し、「減少」とする企業が29.8%と前回(50.4%)より減少した結果、その差は前回より大幅に縮小しました。

3か月後の予想については、「増加」とする企業が20.6%であるのに対して、「減少」とする企業が21.5%と、「減少」とする企業の割合が「増加」とする企業の割合をやや上回っています。

(3)生産量

前年同期比では、「増加」とする企業が30.1%と前回(21.3%)より増加し、「減少」とする企業が46.3%と前回(47.7%)より減少した結果、その差は前回より縮小しました。

3か月前との比較では、「増加」とする企業が27.1%と前回(13.4%)より増加し、「減少」とする企業が34.9%と前回(49.1%)より減少した結果、その差は前回より大幅に縮小しました。

3か月後の予想については、「増加」とする企業が21.9%であるのに対して、「減少」とする企業が25.9%と、「減少」とする企業の割合が「増加」とする企業の割合を上回っています。

(4)製品販売価格

前年同期比では、「高い」とする企業が6.6%と前回(7.1%)よりやや減少し、「安い」とする企業も38.9%と前回(39.7%)よりやや減少した結果、その差は前回とほぼ同じとなりました。

3か月前との比較では、「高い」とする企業が6.2%と前回(3.4%)より増加し、「安い」とする企業が20.8%と前回(23.5%)より減少した結果、その差は前回より縮小しました。

3か月後の予想については、「高い」とする企業が1.8%であるのに対して、「安い」とする企業が21.3%となっており、「安い」とする企業の割合が「高い」とする企業の割合を上回っています。

(5)資金繰り

前年同期比では、「らく」とする企業が12.8%と前回(12.2%)よりやや増加し、「苦しい」とする企業が22.9%と前回(29.1%)より減少した結果、その差は前回より縮小しました。

3か月前との比較では、「らく」とする企業が9.6%と前回(7.0%)より増加し、「苦しい」とする企業が16.9%と前回(24.0%)より減少した結果、その差は前回より大幅に縮小しました。

3か月後の予想については、「らく」とする企業が6.9%であるのに対して、「苦しい」とする企業が21.3%と、「苦しい」とする企業の割合が「らく」とする企業の割合を上回っています。

(6)収益率

前年同期比では、「上昇」とする企業が16.7%と前回(10.2%)より増加し、「低下」とする企業が48.7%と前回(54.7%)より減少した結果、その差は前回より縮小しました。

3か月前との比較では、「上昇」とする企業が12.2%と前回(5.5%)より増加し、「低下」とする企業が36.2%と前回(52.6%)より減少した結果、その差は前回より縮小しました。

3か月後の予想については、「上昇」とする企業が7.5%であるのに対して、「低下」とする企業が29.6%と、「低下」とする企業の割合が「上昇」とする企業の割合を上回っています。

(7) 製造業の業種別動向

電機・電子

(コンピュータ・情報機器) パソコン関連は、高価格帯製品の需要の減少により、受注、生産が減少しているほか、製品価格の下落がみられます。プリンターは、アジア地域を中心とした海外需要の増加により、受注、生産が増加しているものの、円高の影響による収益率の低下がみられます。

(半導体関連) 産業用途の一部や環境対応車向けで、海外需要の回復により、受注、生産が持ち直しているものの、デジタル家電向けでは、需要の減少により、受注、生産が減少しています。

(プリント基板) 産業用途は、海外需要の減少により、受注、生産が減少しています。スマートフォン向けは、受注、生産に一服感がみられるほか、円高の影響や製品価格下落に伴う収益率の低下もみられます。

(抵抗器・コンデンサ等) デジタル家電向けは、需要の減少により受注、生産が減少しています。自動車関連向けは、環境対応車の販売増加に伴い、一部に受注、生産の増加がみられます。

(モーター等) 産業用途は、海外需要の減少により、受注、生産が弱含んでいるものの、自動車関連向けは、環境対応車の販売増加に伴い、受注、生産が増加しています。家電向けの一部では、タイの洪水からの復旧に伴い、受注、生産の持ち直しがみられます。

(その他) カーナビゲーションは、タイの洪水からの復旧に伴い、受注、生産が増加しています。電源関連は、受注、生産が弱含んでいるほか、製品価格下落に伴う収益率の低下もみられます。

一般機械

(工作機械) 自動車関連向けは、環境対応車の販売増加やタイの洪水からの復旧に向けた需要の増加により、受注、生産が回復しています。電子部品関連向けは、設備投資が抑制傾向にあり、受注、生産が弱含んでいます。

(金 型) 自動車関連向けは、受注、生産が低調に推移しているほか、価格競争激化による収益率の低下もみられます。

(建設機械) 国内向けは、需要が回復傾向にあり、受注、生産が持ち直しています。海外向けは、需要の増加により、受注、生産が増加しています。

(農業用機械)	農業用機械は、季節的要因により、3か月前と比べ受注、生産の増加がみられます。芝刈り機や小型ディーゼルエンジンは、受注、生産が減少しているほか、円高の影響による収益率の低下もみられます。
精 密 (時計)	腕時計は、個人消費の持ち直しや、海外需要の増加により、受注、生産の増加がみられます。
(レンズ)	プロジェクター向けは、欧米を中心とした海外需要の減少により、受注、生産の減少がみられます。工業用レンズは、受注、生産の持ち直しがみられます。
(計器)	圧力計は、産業機械関連を中心に、受注、生産が減少しています。LPガスメーターは、季節的要因により、3か月前と比べ受注、生産が増加しています。
自動車部品	環境対応車の販売増加やタイヤの洪水からの復旧に伴い、受注、生産が増加しています。
食料品 (味所)	個人消費の持ち直しにより、受注、生産の増加がみられます。
(酒類)	清酒、ワインは、一部に受注、生産の増加がみられるものの、消費の低迷により引き続き低調に推移しています。
(飲料)	季節的要因により、3か月前と比べペットボトル飲料の受注、生産が増加しています。
繊維・衣服	ワイシャツは、クールビズの定着に伴う需要の増加により、受注、生産が増加しています。
紙・パルプ	ダンボールは、製造業向けで、受注、生産の増加がみられます。
印刷	印刷・製本の需要が引き続き低迷しているものの、季節的要因により、3か月前と比べ受注、生産の増加がみられます。
その他	工業用プラスチックは、エコ関連やタブレット型端末向けの一部で、受注、生産の増加がみられます。

3 建設業

建設業の業況感は、DI が $\Delta 26.5\%$ と前回 ($\Delta 29.0\%$) より改善したものの、公共工事は引き続き厳しい受注環境にあります。民間工事の受注件数は、やや持ち直しているものの販売価格の低迷により、売上高は前年同期を下回る企業の割合が依然として多い状況です。

また、収益率は事業者間の価格競争や燃料価格の高騰などにより、前年同期を下回る企業の割合が増加しています。

4 情報サービス業

情報サービス業の業況感は、DI が $\Delta 14.3\%$ と3期ぶりに悪化しました。

ソフトウェア関連では、タブレット型端末などの需要が好調なことから、客数（受注件数）は前年同期を上回る企業の割合が増加しています。

業務用システム関連では、事業者間競争による販売価格の低下や製造業などの海外展開による国内取引先の減少などにより、販売価格は前年同期を下回る企業の割合が増加しています。

5 小売業・卸売業

小売業・卸売業の業況感は、DI が $\Delta 22.5\%$ と前回 ($\Delta 49.6\%$) より改善しました。

小売業では、新店舗の開店や店舗改装、消費者の購買意欲の回復などの動きが見られ、売上高、客数はともに前年同期を上回る企業の割合が増加しています。

卸売業では、大手量販店との価格競争など厳しい状況ではありますが、客数（取引先）は、東日本大震災の影響があった前年同期を上回る企業の割合が増加しています。そのため、販売価格は前年同期並みではあるものの、売上高、収益率はともに前年同期を上回る企業の割合が増加しています。

6 飲食業・宿泊業

飲食業・宿泊業の業況感は、DI が $\Delta 2.3\%$ と前回 ($\Delta 44.4\%$) より大幅に改善しました。

飲食業では、原材料の上昇や光熱費等の経費削減への対応が求められるものの、売上高、客数及び販売価格は東日本大震災の影響があった前年同期を上回る企業の割合が増加しています。

宿泊業では、東日本大震災の反動などにより、売上高、客数はともに前年同期を上回る企業の割合が増加しています。

※ 平成 23 年度の調査から、従来の「製造業」に、「建設業」、「情報サービス業」、「小売業・卸売業」、「飲食業・宿泊業」を加えて実施しています。

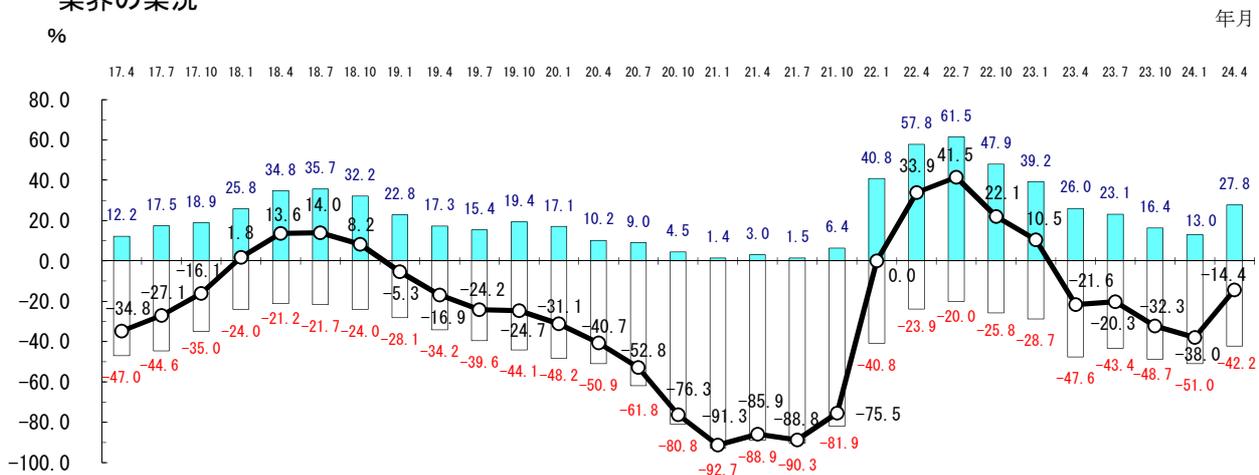
景気動向調査集計結果

(注)棒グラフのプラス側は好転(増加、上昇)の企業の割合、マイナス側は悪化(減少、低下)の企業の割合です。
折れ線グラフ(DI)は好転(増加、上昇)の企業の割合から悪化(減少、低下)の企業の割合を引いた差です。

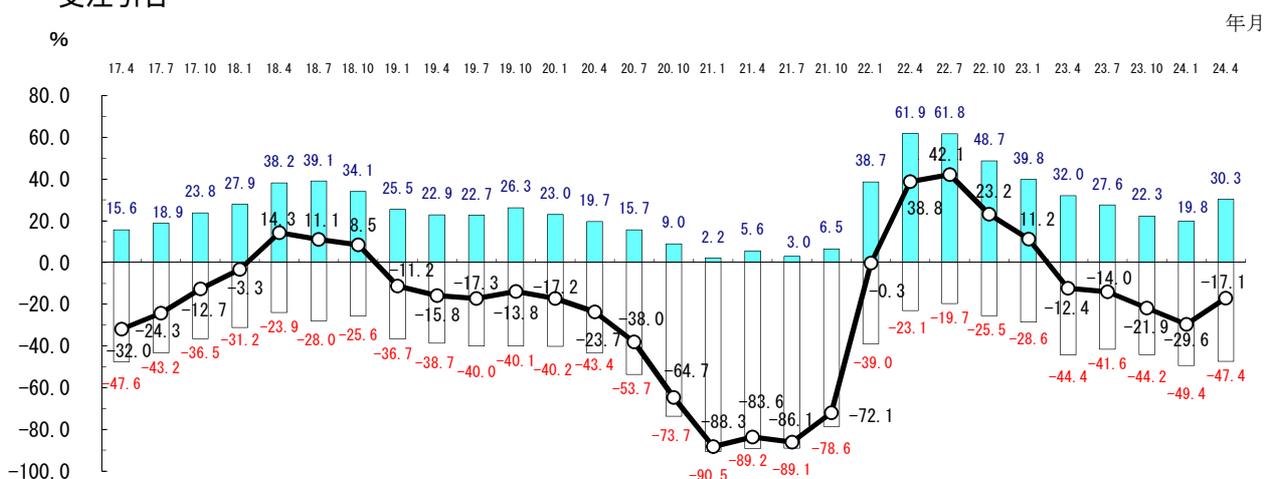
1 製造業

(1) 全業種 前年同期に比べて

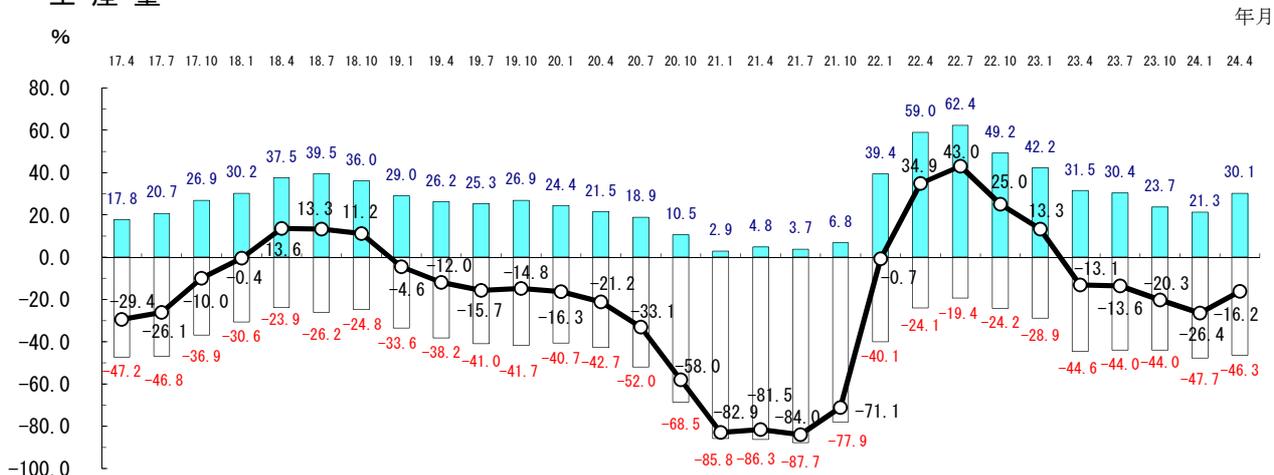
業界の業況



受注引合

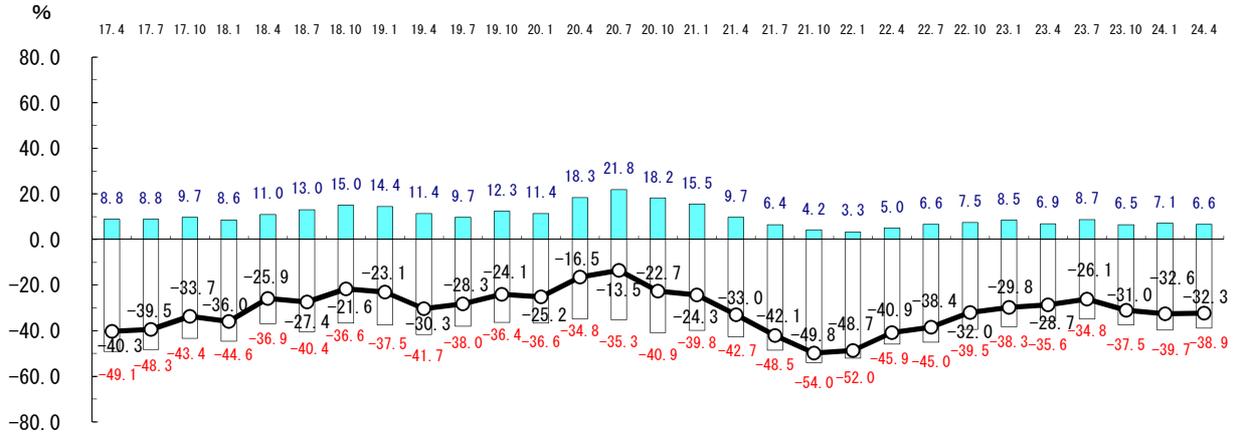


生産量



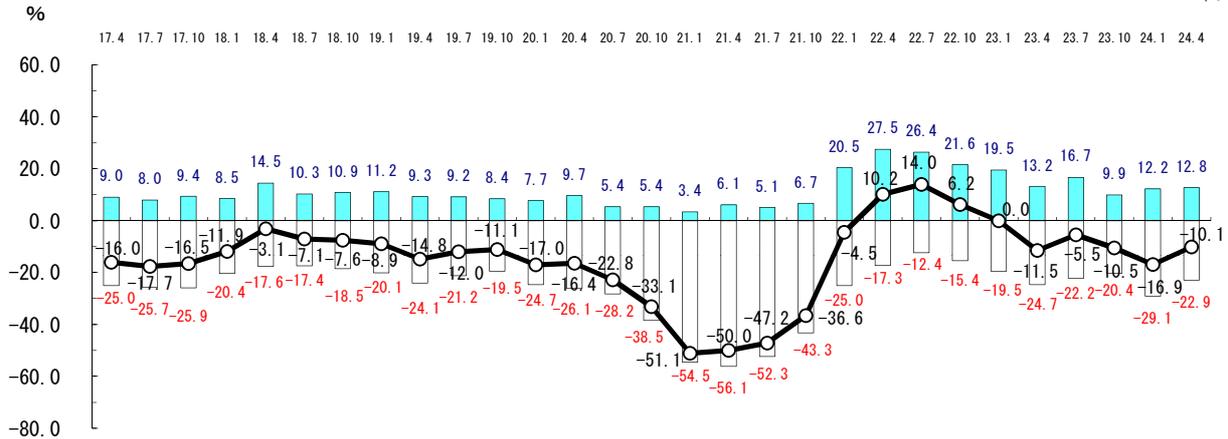
製品販売価格

年月



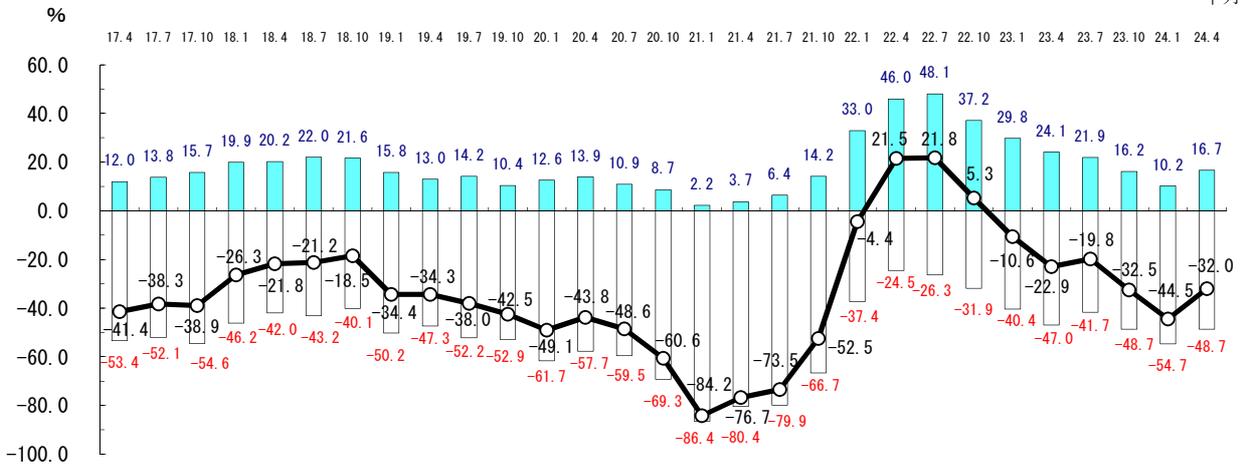
資金繰り

年月



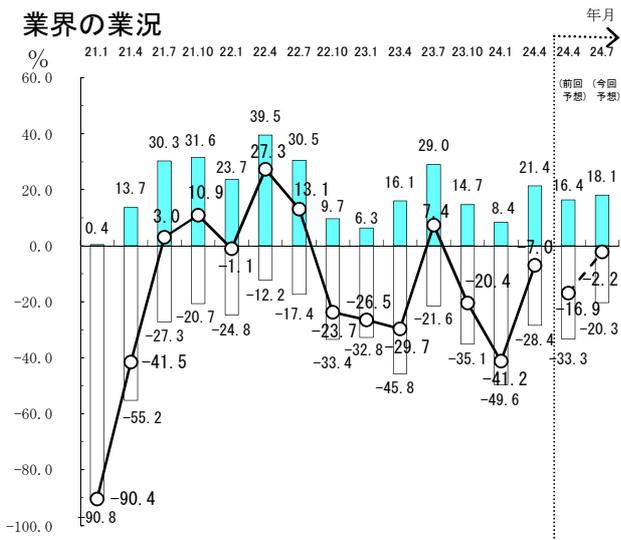
収益率

年月

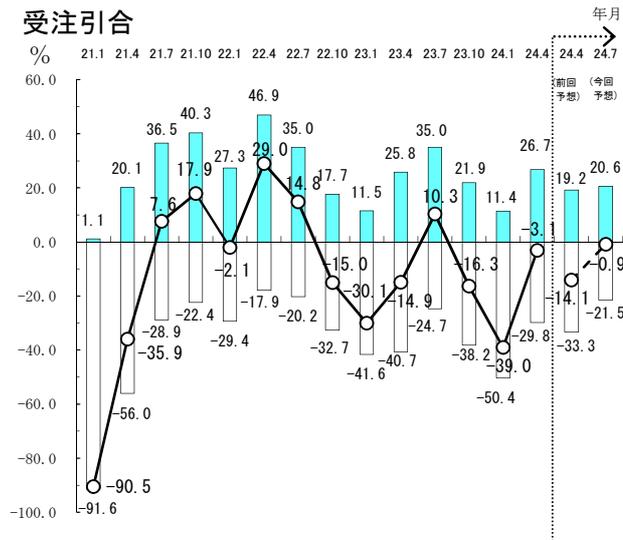


(2) 全業種 3か月前に比べて及び3か月後の予想

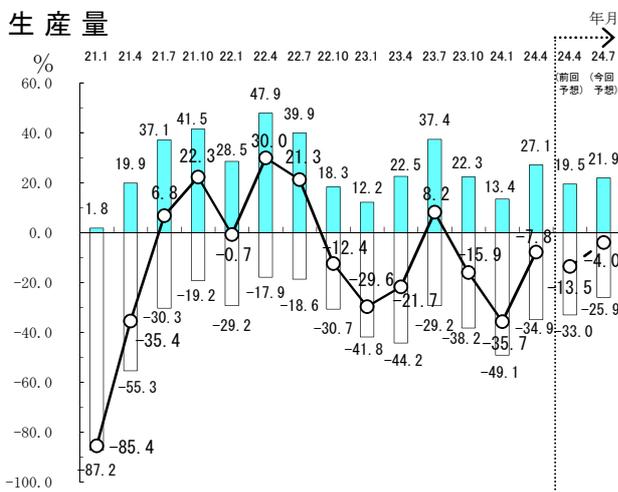
業界の業況



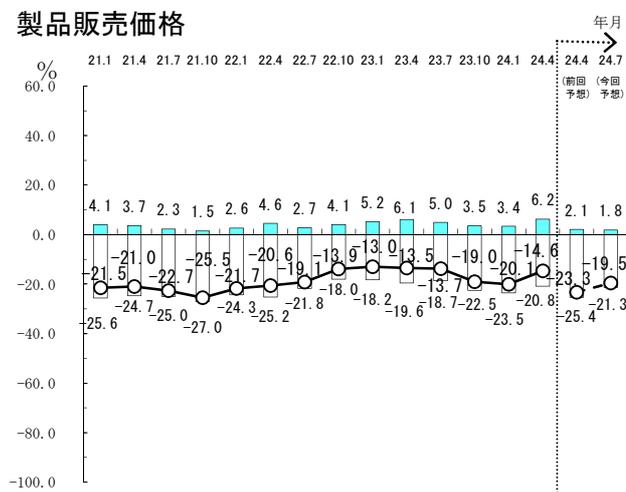
受注引合



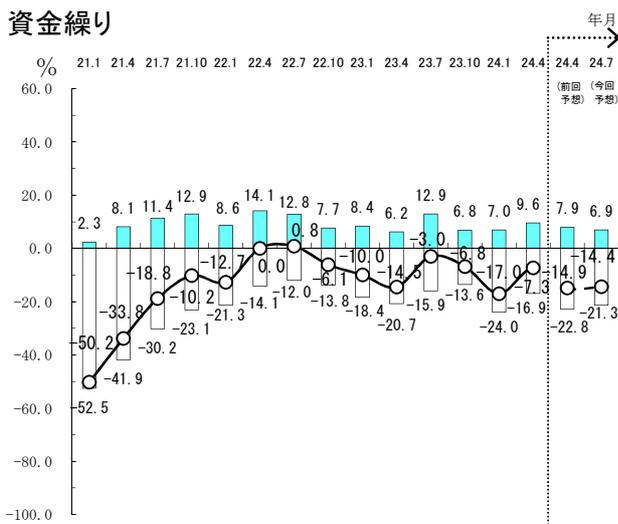
生産量



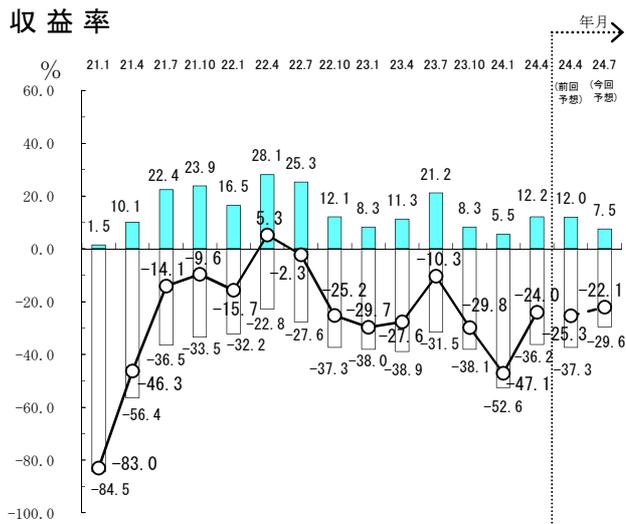
製品販売価格



資金繰り



収益率



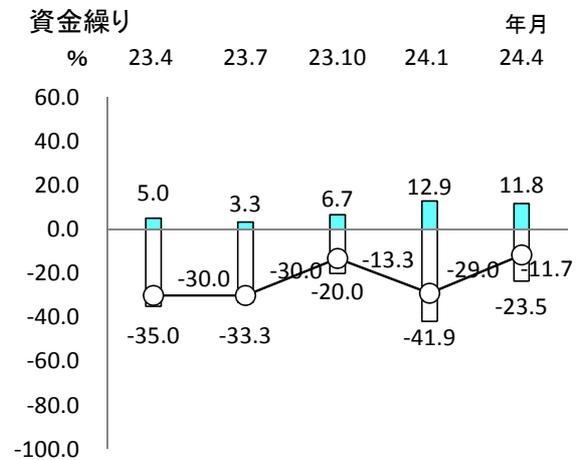
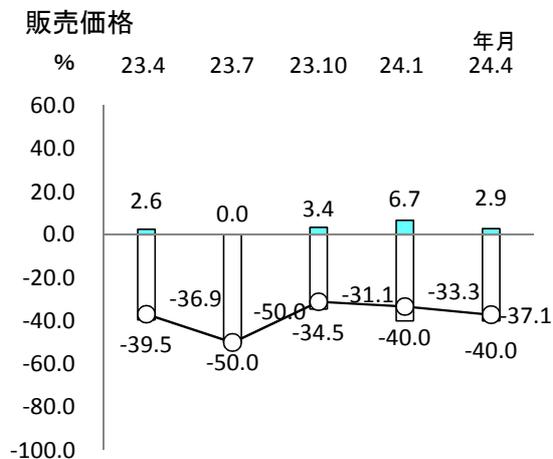
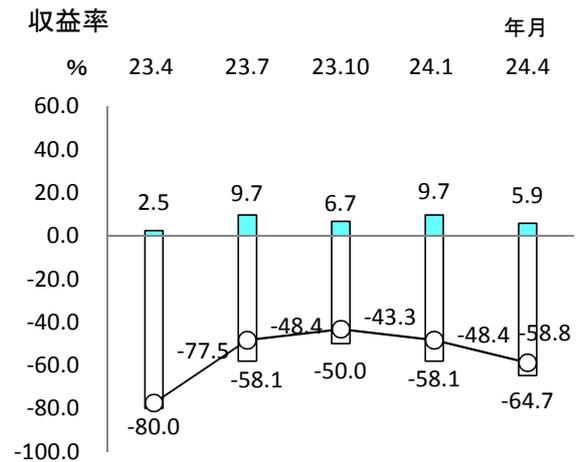
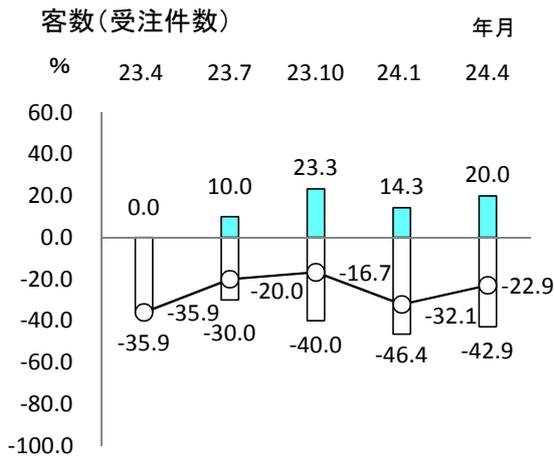
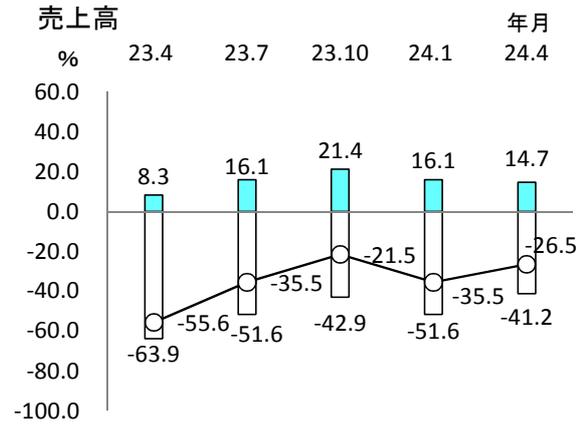
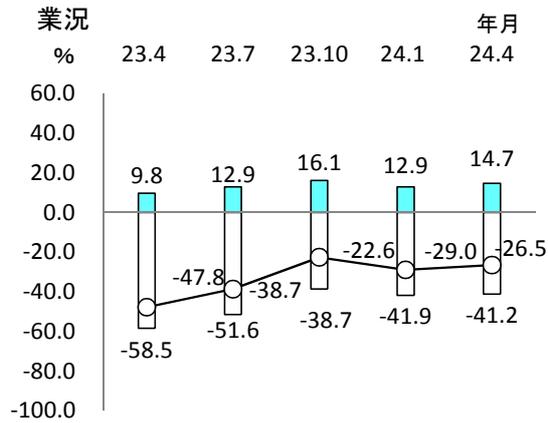
2 建設業、情報サービス業、小売業・卸売業、飲食業・宿泊業

※平成23年度の調査から、従来の「製造業」に、「建設業」、「情報サービス業」、「小売業・卸売業」、「飲食業、宿泊業」を加えて実施しました。

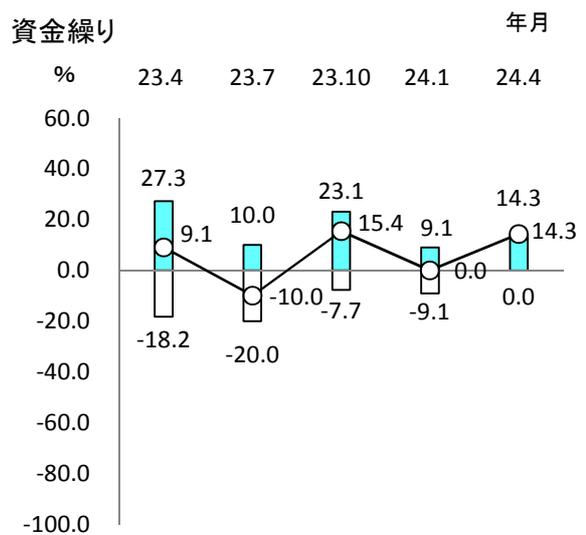
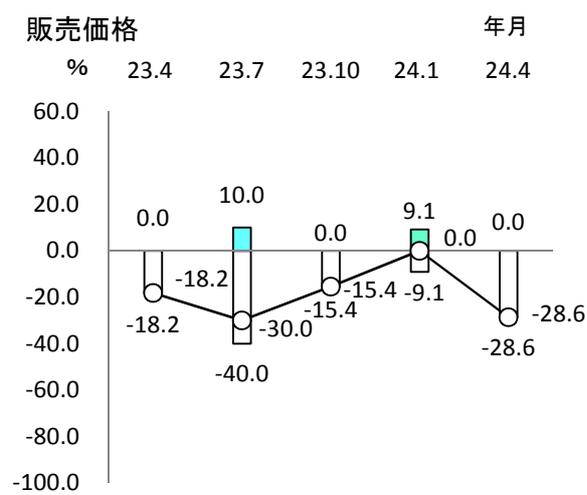
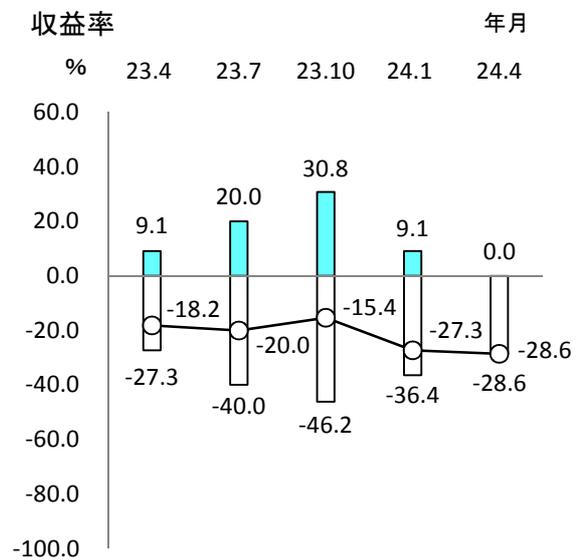
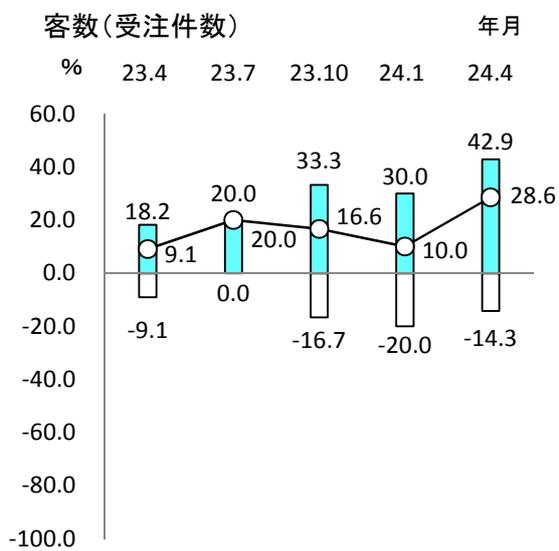
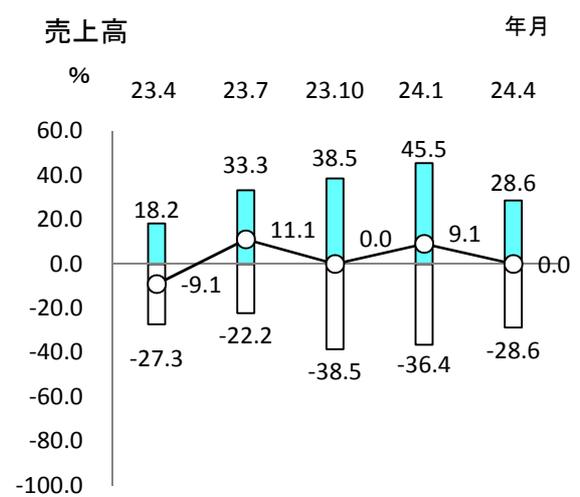
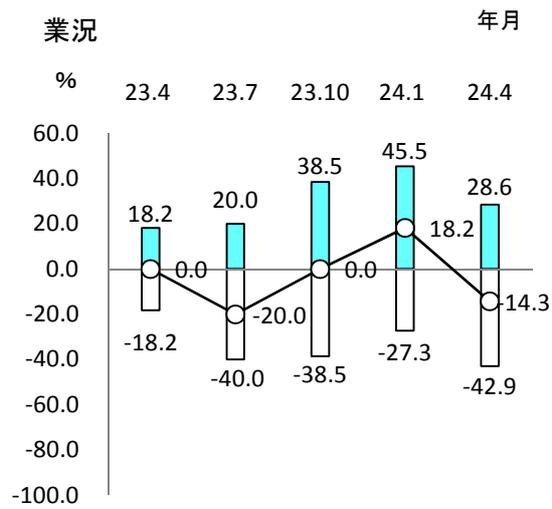
(注) 棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下）の企業の割合です。
点（D I）は好転（増加、上昇）の企業の割合から悪化（減少、低下）の企業の割合を引いた差です。

(1) 前年同期に比べて

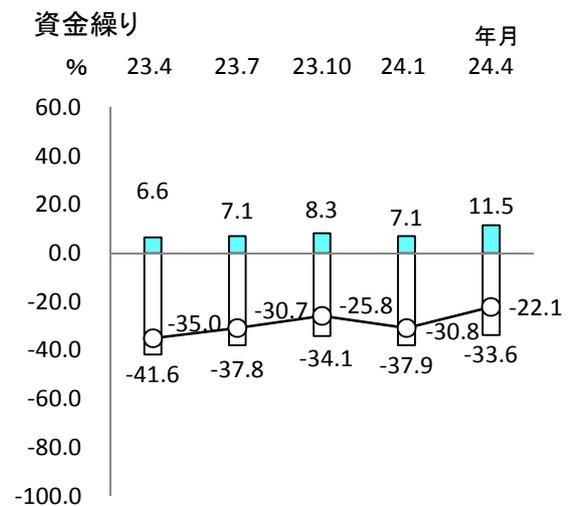
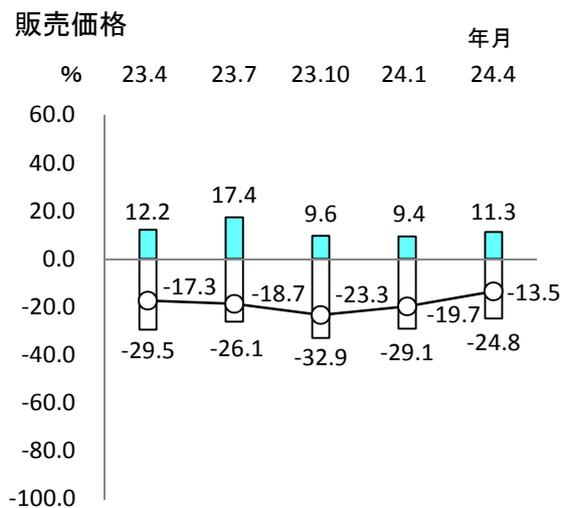
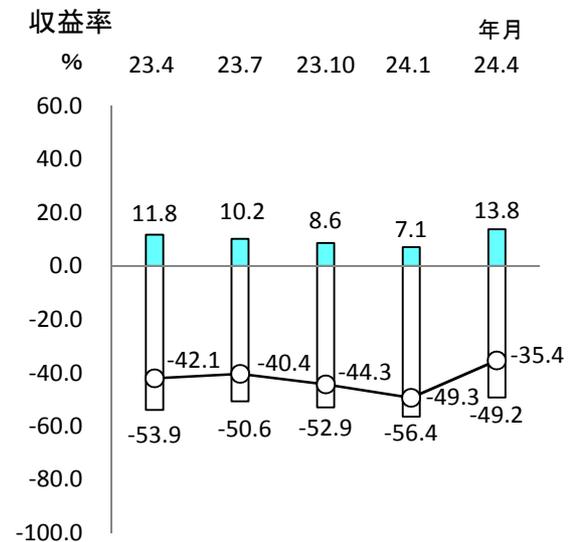
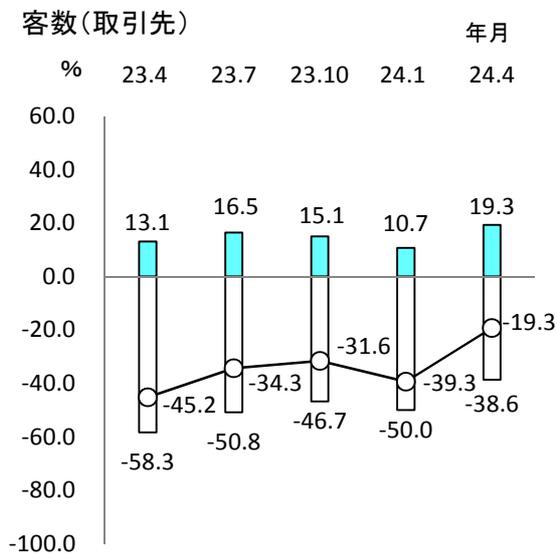
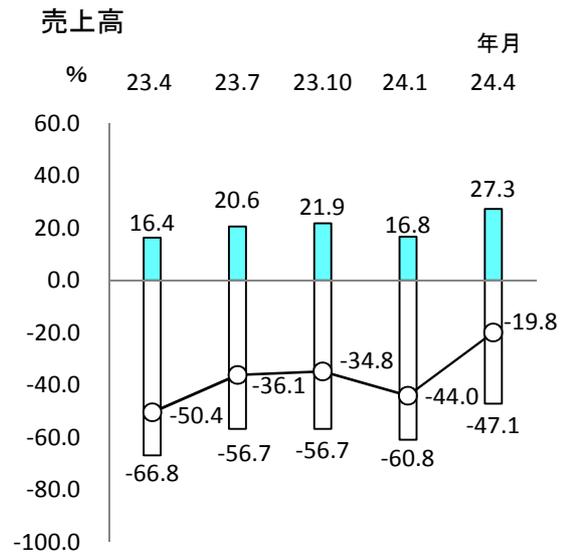
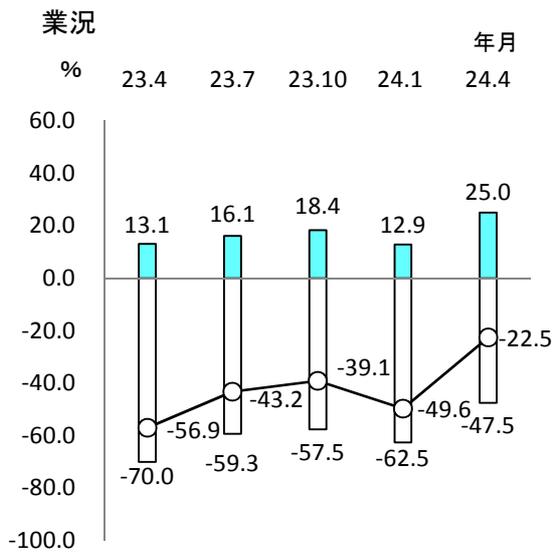
ア 建設業



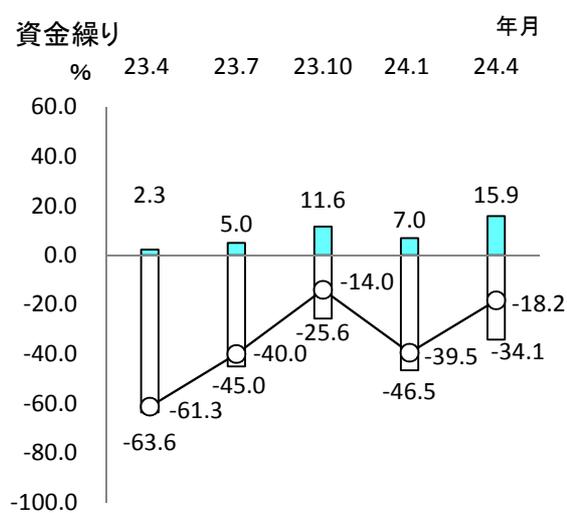
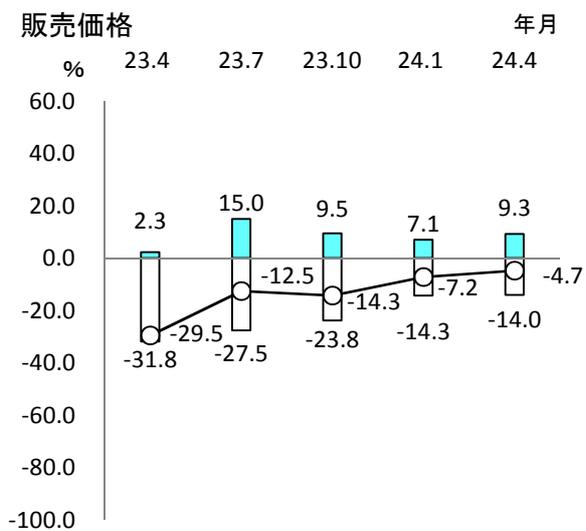
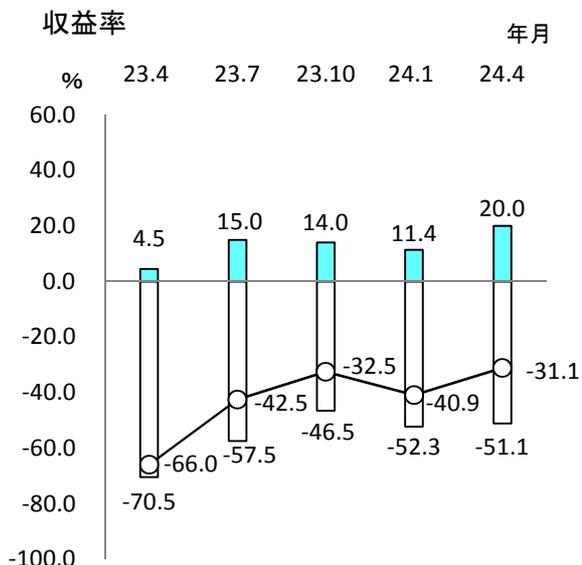
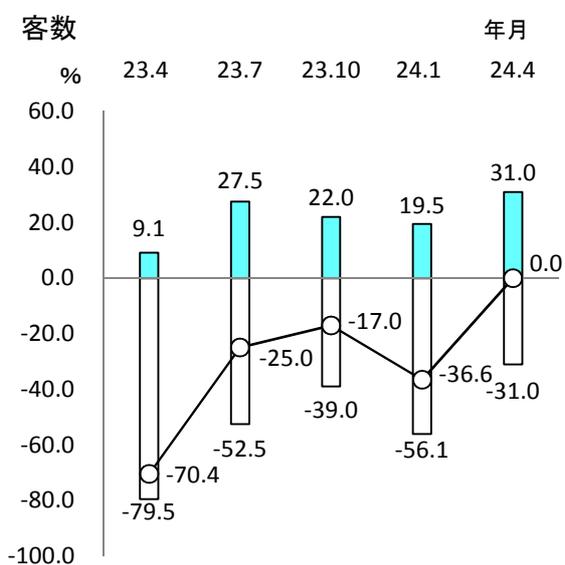
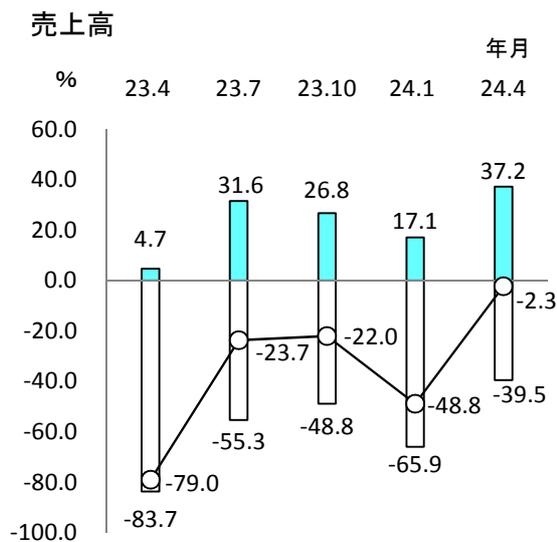
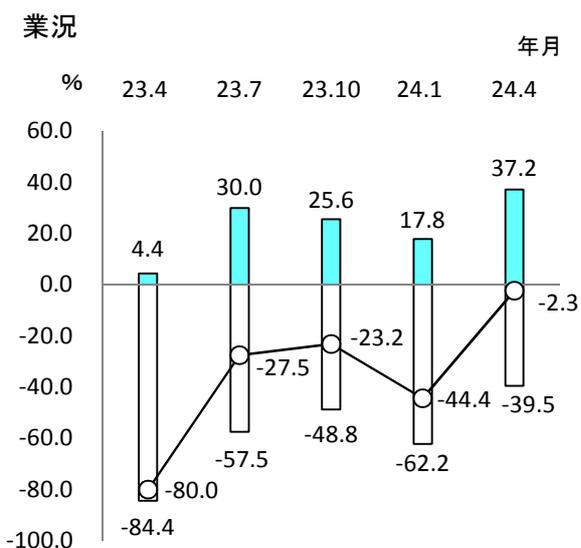
イ 情報サービス業



ウ 小売業・卸売業



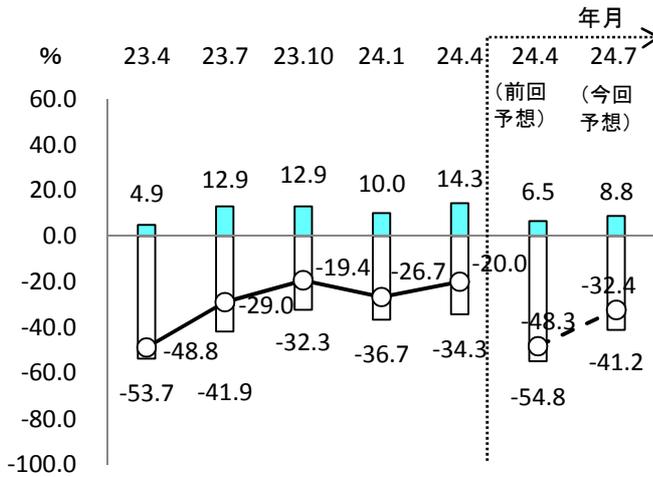
工 飲食業・宿泊業



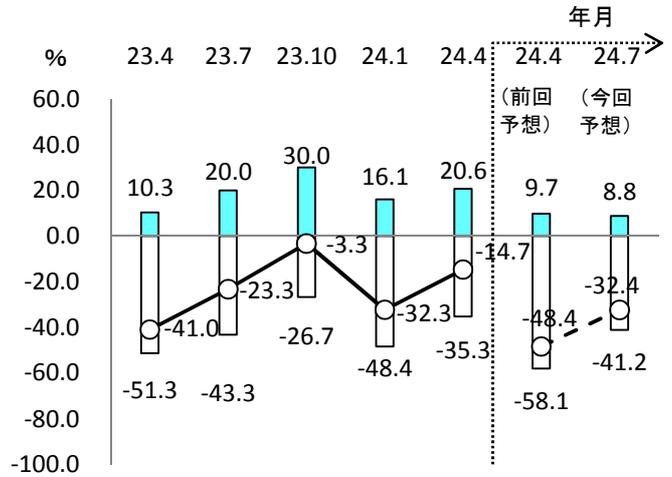
(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想

ア 建設業

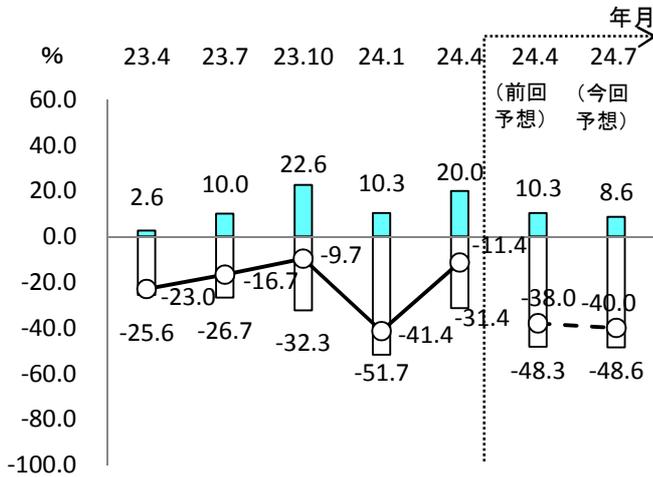
業況



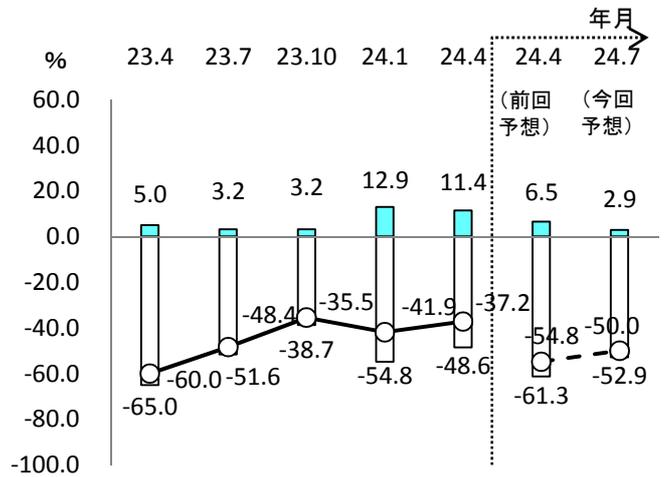
売上高



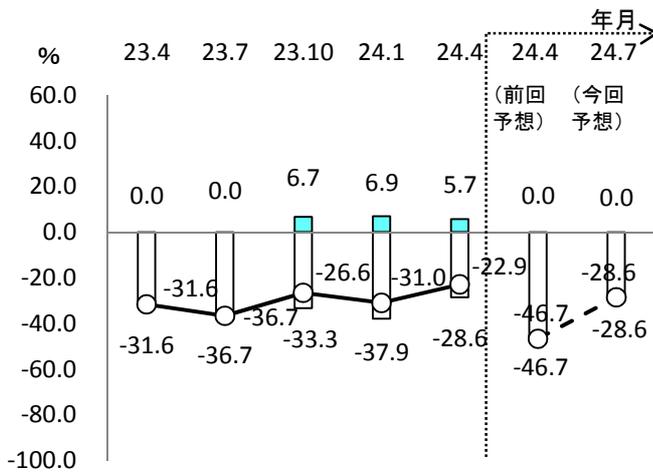
客数(受注件数)



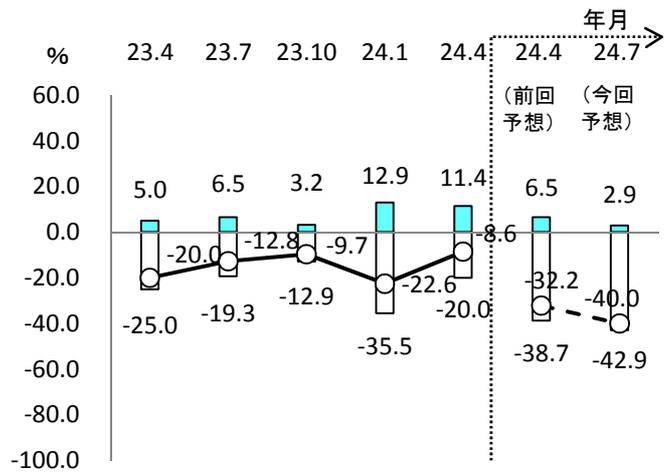
収益率



販売価格

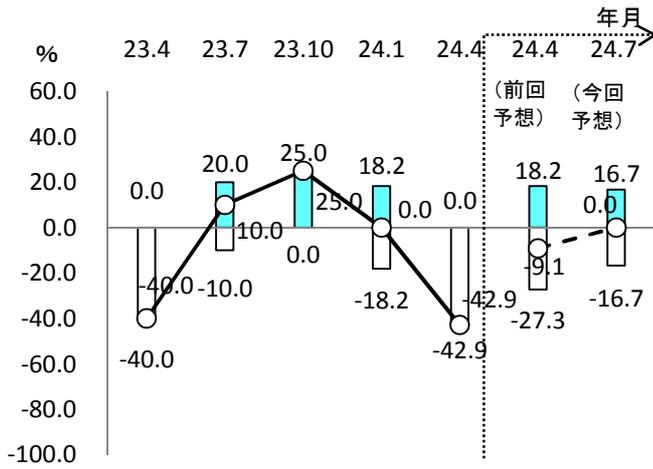


資金繰り

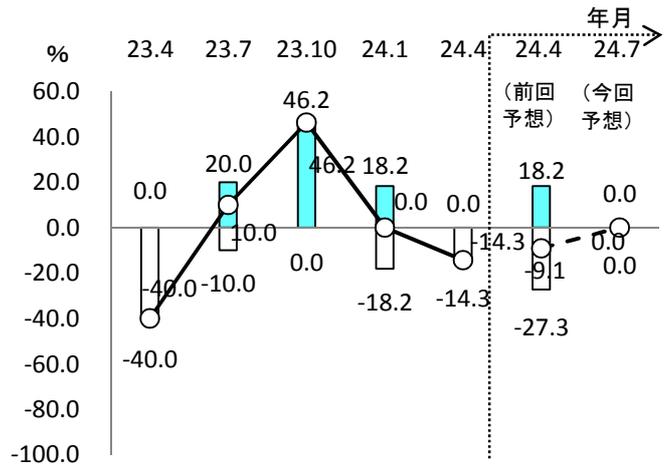


イ 情報サービス業

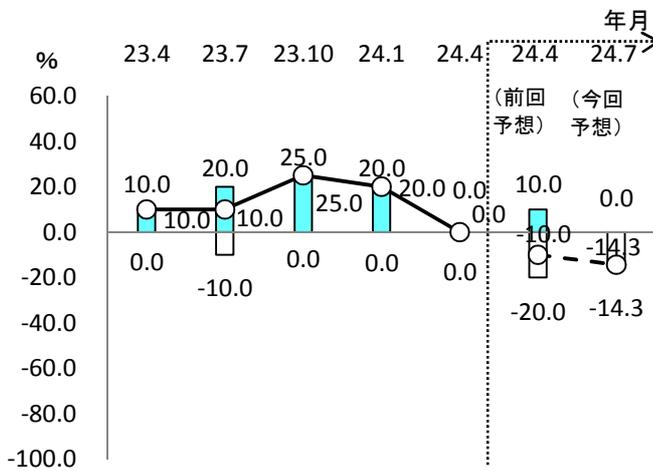
業況



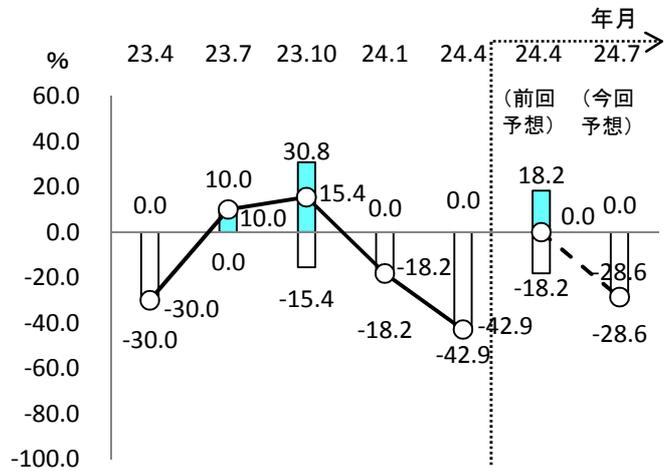
売上高



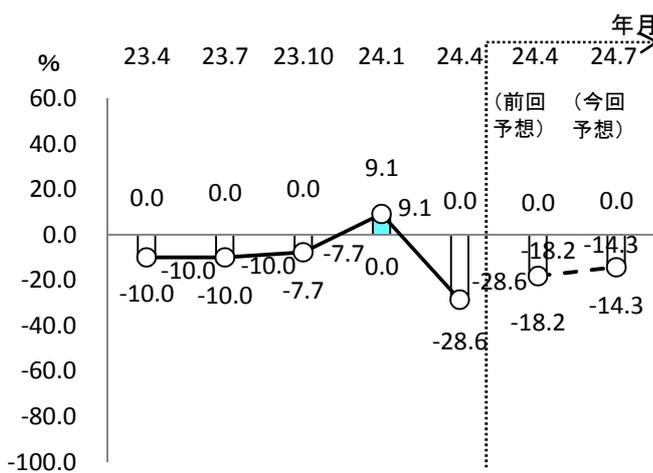
客数(受注件数)



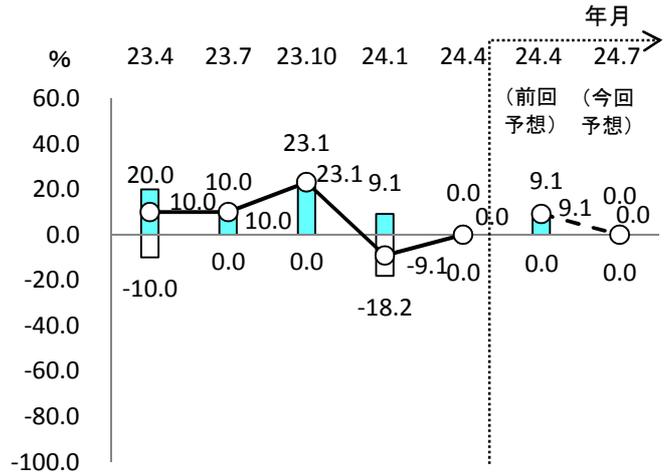
収益率



販売価格

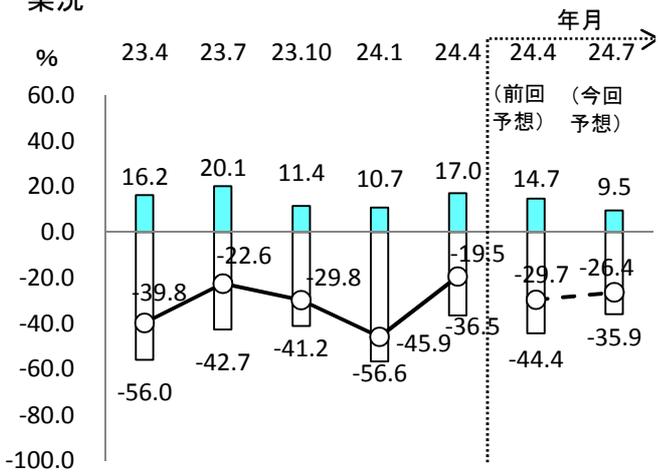


資金繰り

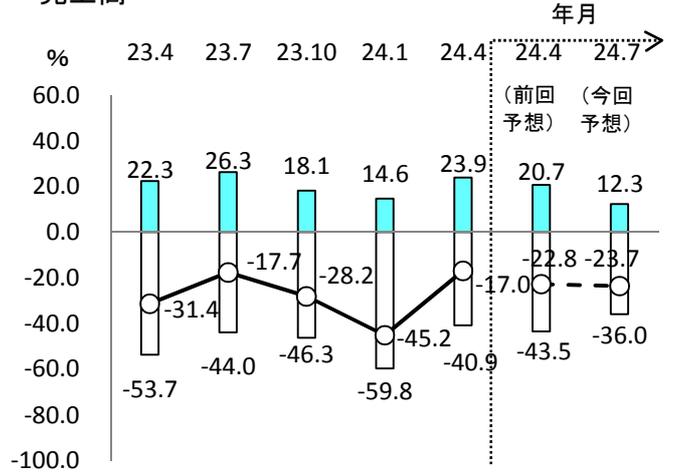


ウ 小売業・卸売業

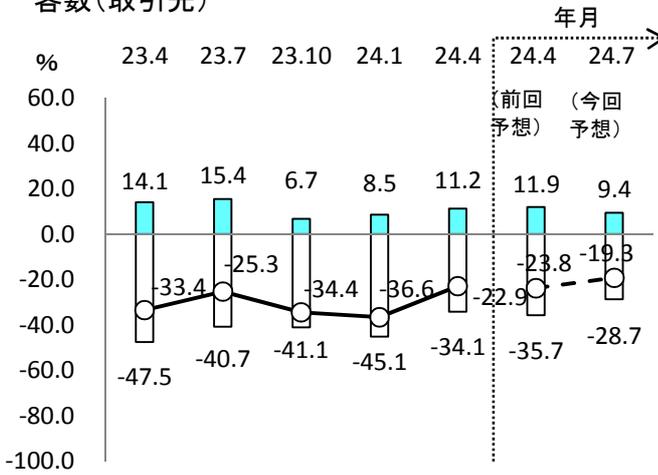
業況



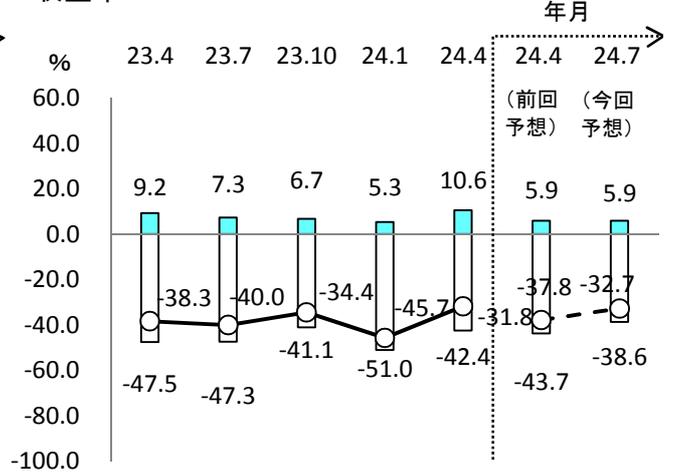
売上高



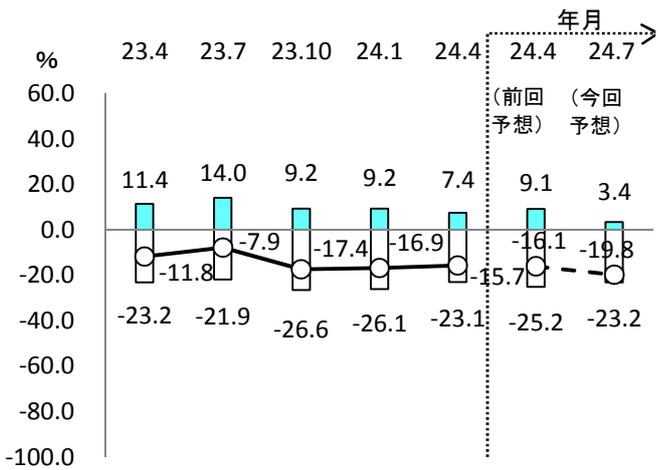
客数(取引先)



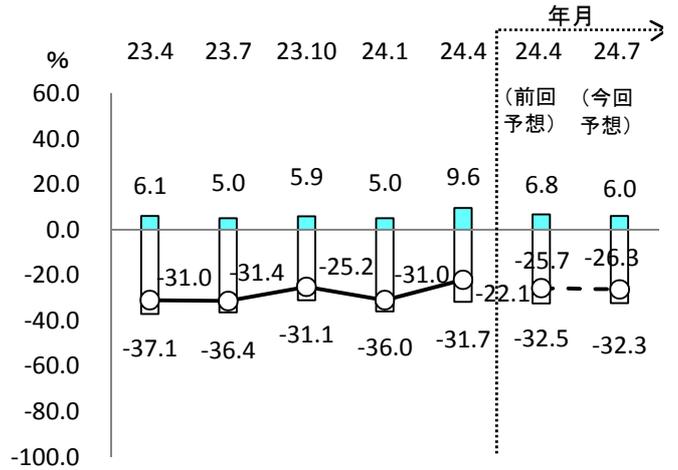
収益率



販売価格

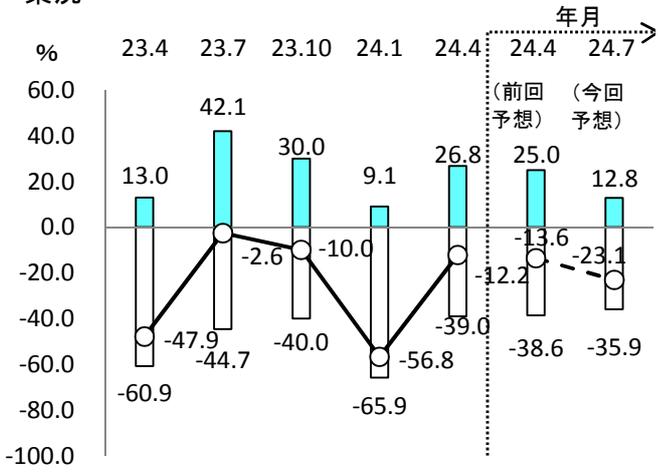


資金繰り

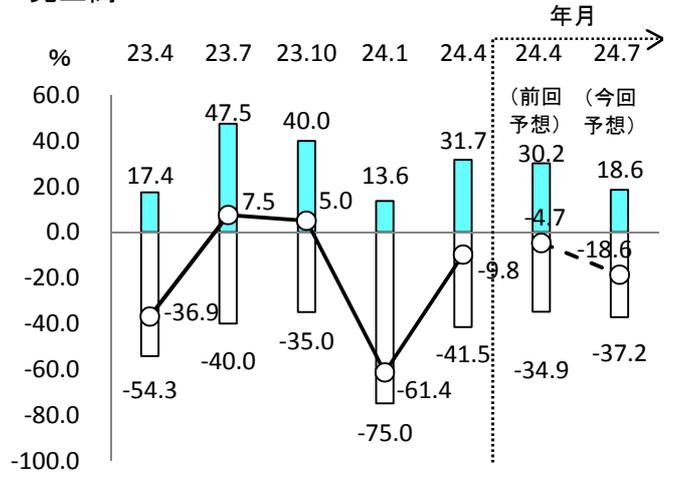


工 飲食業・宿泊業

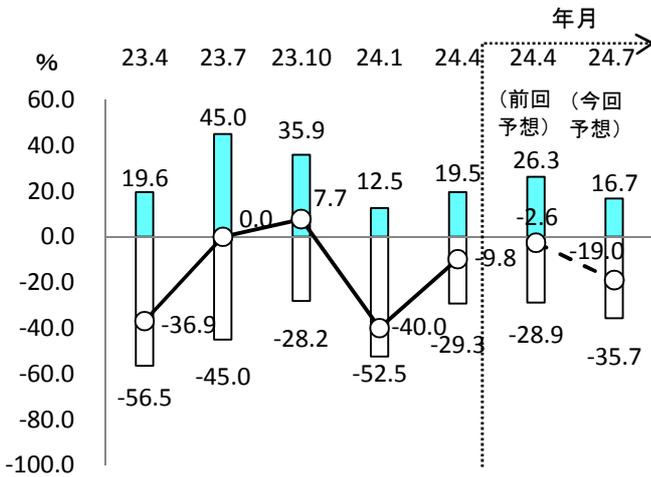
業況



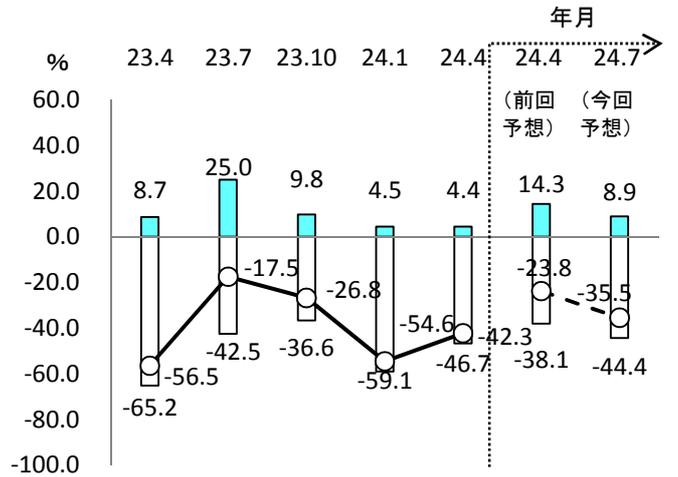
売上高



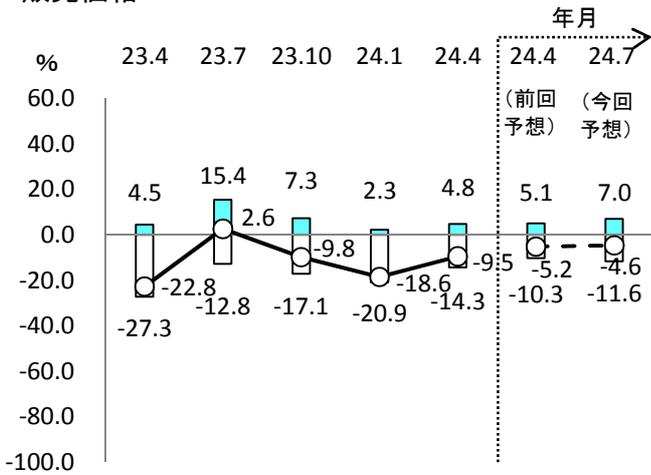
客数



収益率



販売価格



資金繰り

